



# 「カメのぼんちゃん」 副読本

カメのぼんちゃん作成委員会  
臼杵市医師会立コスモス病院  
リハビリテーション部 竹村仁、関翔太

# いわゆる2025年問題

皆さんはいわゆる2025年問題というのを知っていますか？これは、日本の高度経済成長時代を支えた団塊世代の方々が75歳以上の後期高齢者となる時代を指しています。

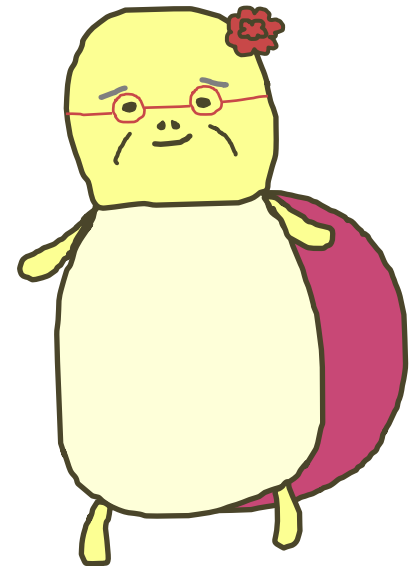
そこで問題となるのが、多くの方が亡くなる『多死社会』がくると言われています。



# 多くの方が亡くなる時代

ベビーブームであった団塊世代の方々が『多死社会』を迎えた後、人口は減少の一途をたどります。ですので、国は施策として病院や大きな施設は作らない方向性を打ち出しています。

そして逆に力を入れているのが  
**在宅部門と医療の連携強化**です。



# 在宅と病院の連携を強化する事業 の名前→プロジェクトZ

さまざまな慢性的な病気をかかえていても、自宅にいながら必要な医療サービスが受けられるように、コスモス病院の医師、開業医、歯科医師、訪問看護師、薬剤師、ケアマネジャーなど医療・介護に関係する全ての職種がチームとなってサポートします。

ZとはZaitakuの  
“Z”のことよ

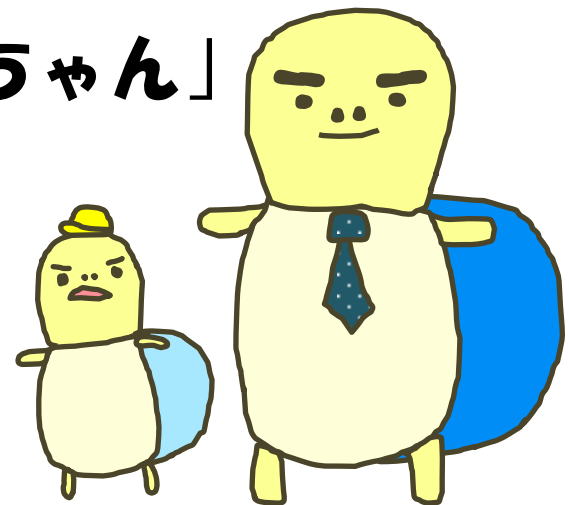


# 住み慣れた地域で出来るだけ長く 元気に暮らしていくために

これを実現するためにプロジェクトZでは市民のみなさまと一緒に、地域ぐるみの準備が必要と考えています。

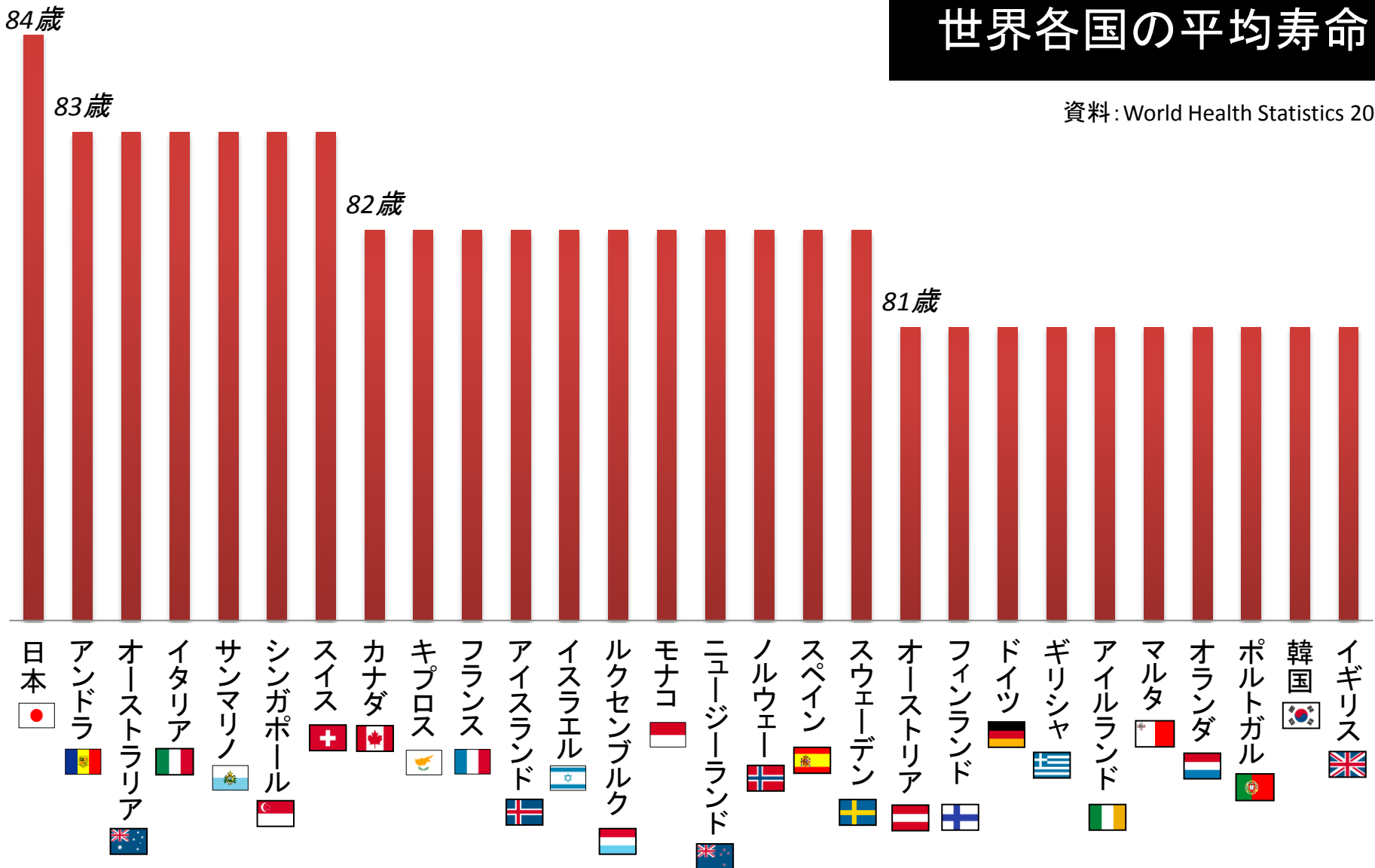
そこで、この事業の啓発する一つの手段として絵本「**カメのぼんちゃん**」が作成されました。

次ページからの統計資料  
も参考にしてくださいネ



# 世界各国の平均寿命

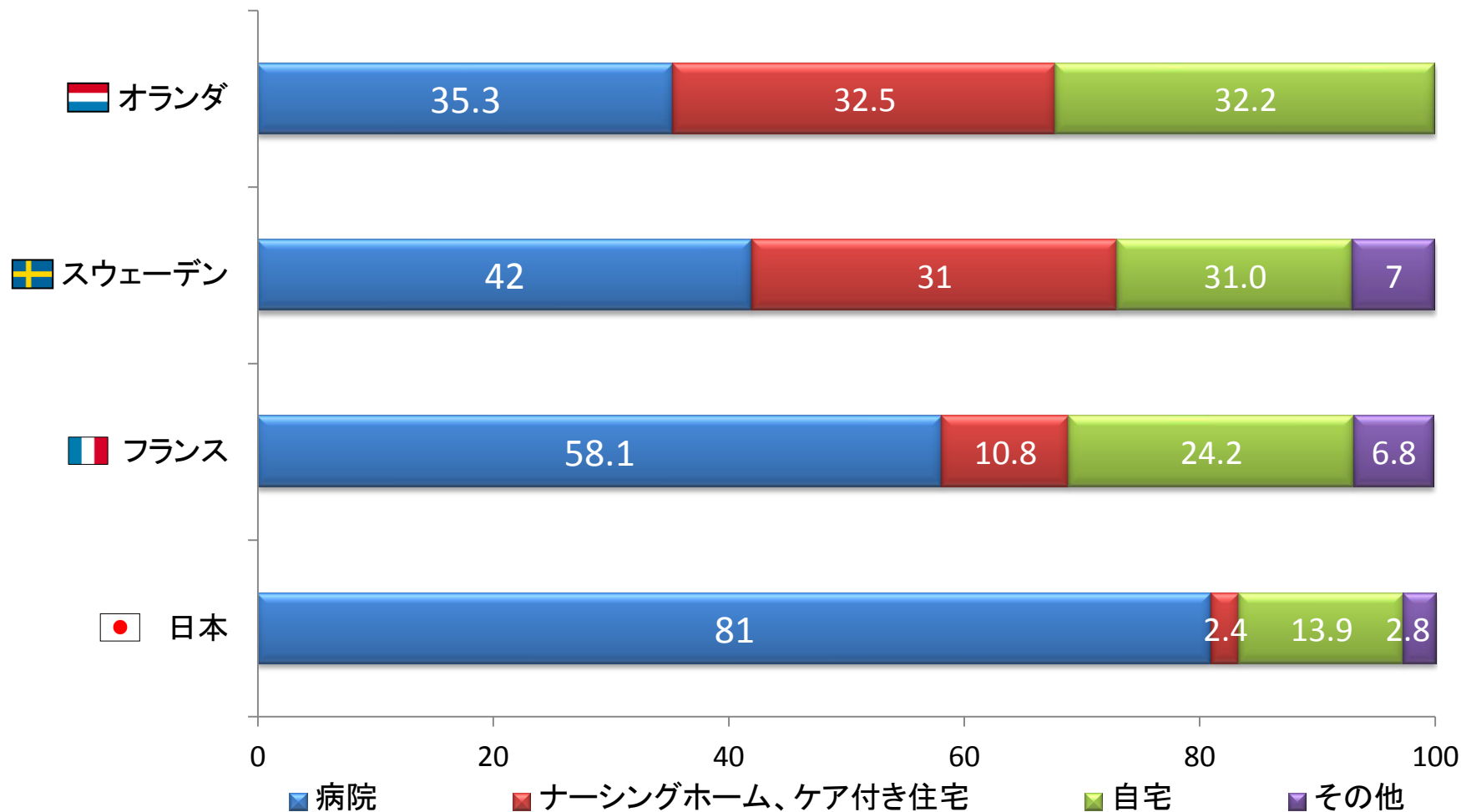
資料: World Health Statistics 2014



日本人の平均寿命は、男女合わせて平均84歳と世界有数の長寿国です。国民皆保険制度の存在や医療制度の充実など、さまざまな要因が長寿に繋がっていると考えられています。

# 死亡する場所

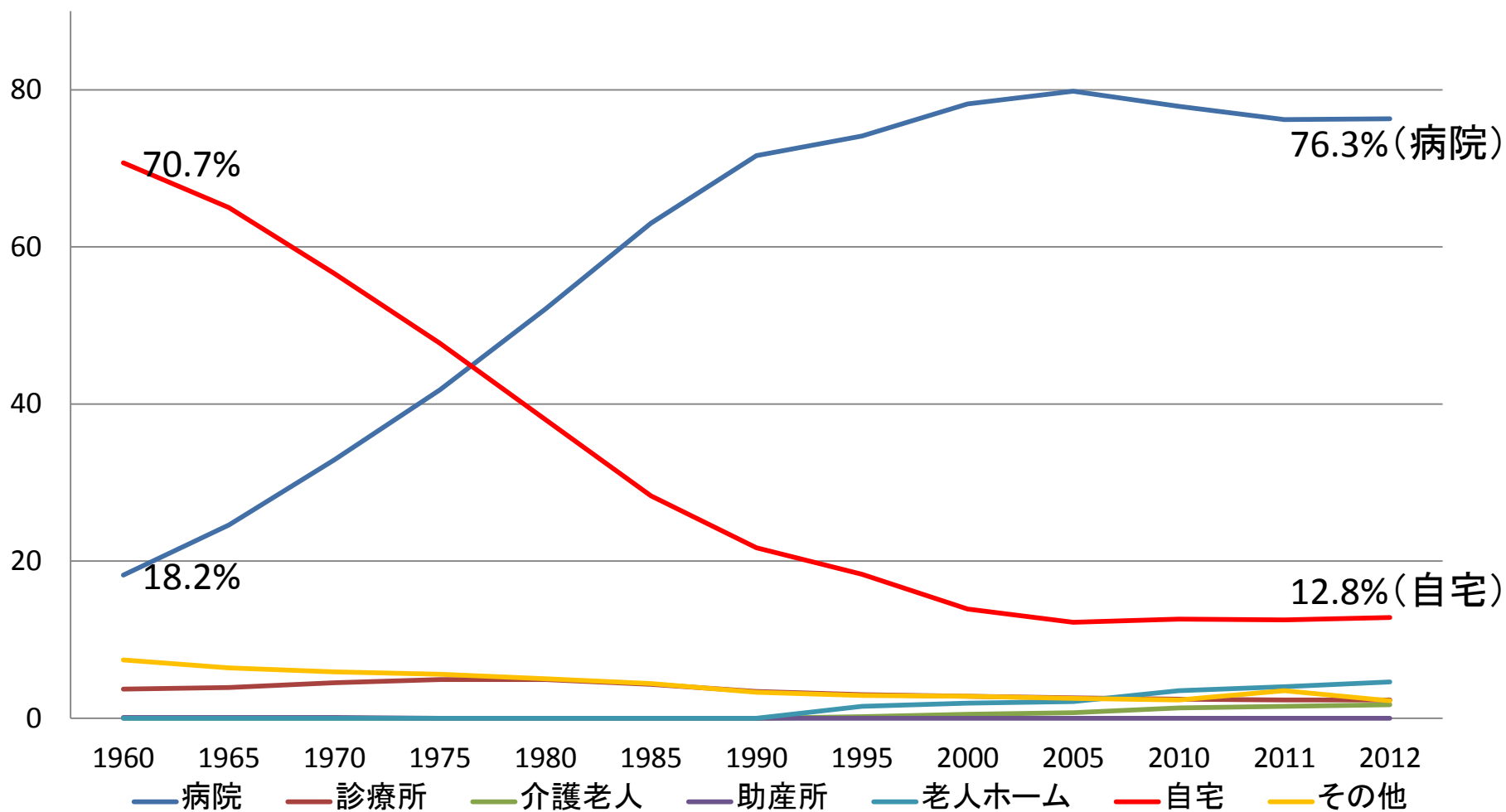
資料: 要介護高齢者の終末期における医療に関する研究報告書 (医療経済研究機構)



世界有数の長寿国ではありますが、自宅で看取ることに関しては日本と諸外国で差を認めています。現代の日本において自宅で亡くなる方は1割程度であり、病院で亡くなる方がこれほど多い国はありません。

# 死亡場所の推移

資料:人口動態統計(厚生労働省)

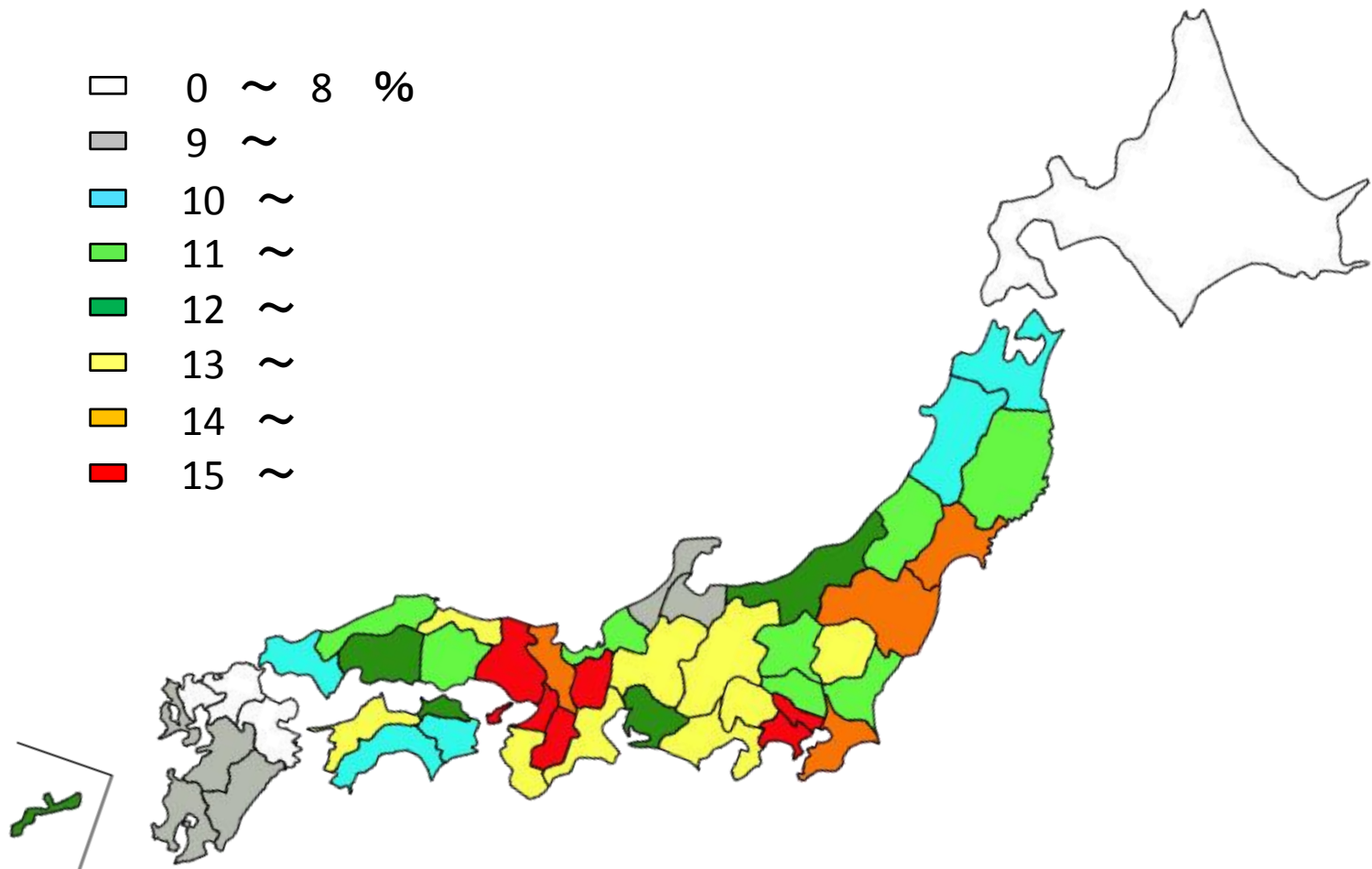


昭和30年代まで日本でも自宅で看取ることは普通のことでした。しかし、時代の流れとともに病院で亡くなる方が増えました。病院で亡くなることが「当たり前」となっている現代では、自宅で看取るということはイメージしにくいのではないのでしょうか。看取りを経験していない医療・介護スタッフも同様です。



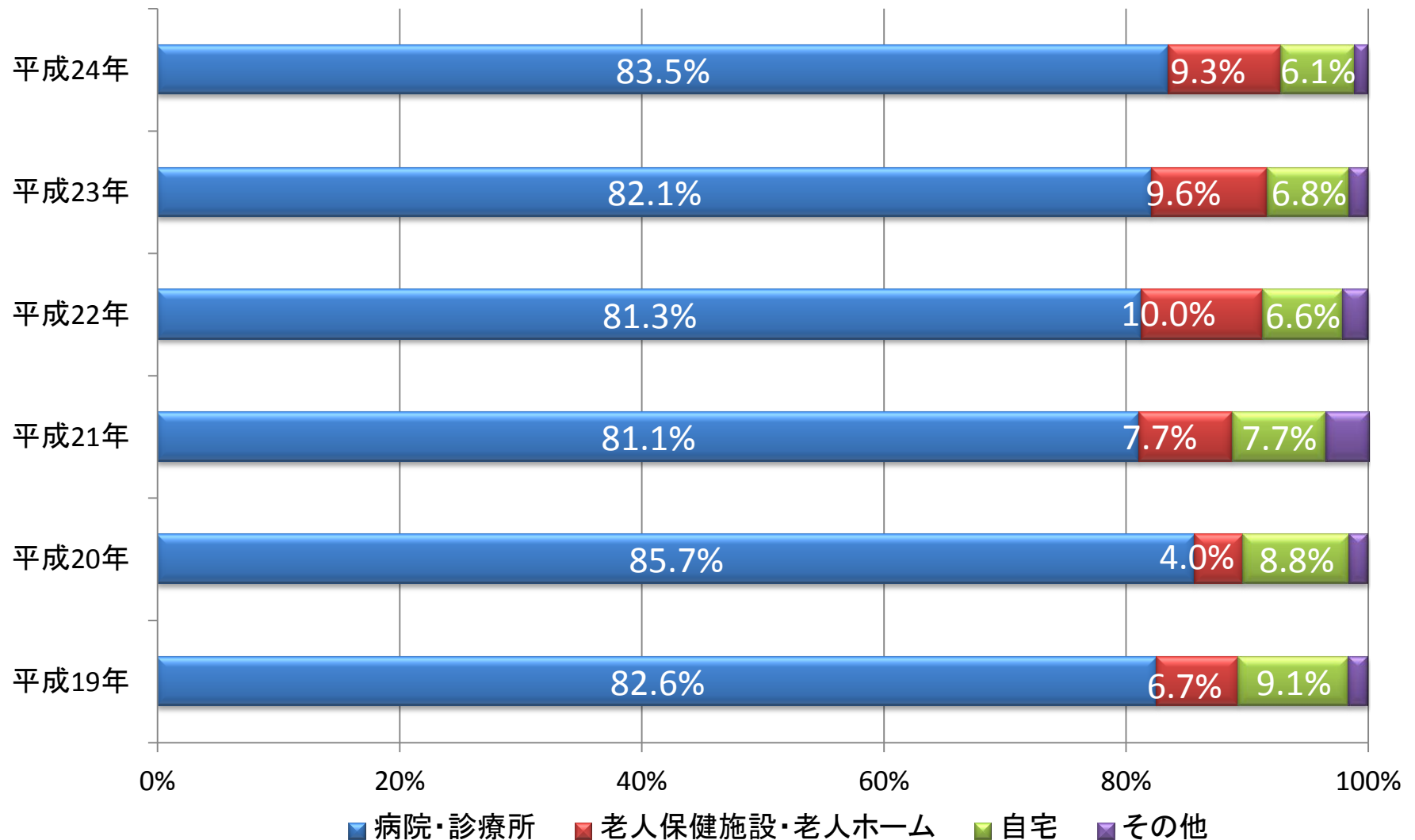
# 都道府県別自宅死亡率

資料:人口動態統計(厚生労働省)



大分県は自宅での看取り率8.6%です。  
この値は平成24年の調査では全国で最下位となっています。

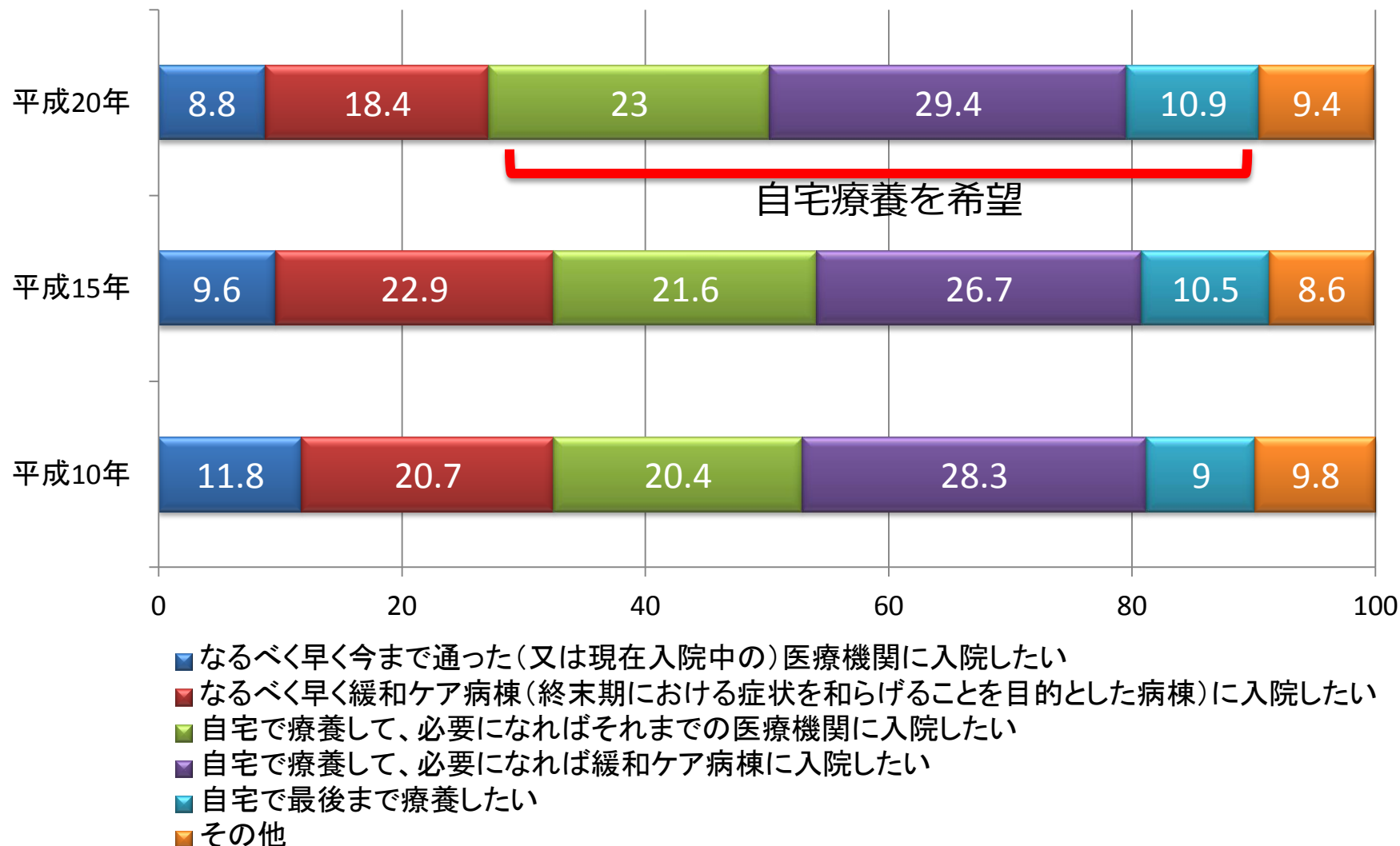
# 死亡場所の推移(臼杵市)



臼杵市ではいかがでしょうか。  
病院・診療所で亡くなる方は、全国平均と比べてもほとんど変わらず、  
年々自宅で亡くなる方は減少傾向です。

# 終末期医療における療養の場所

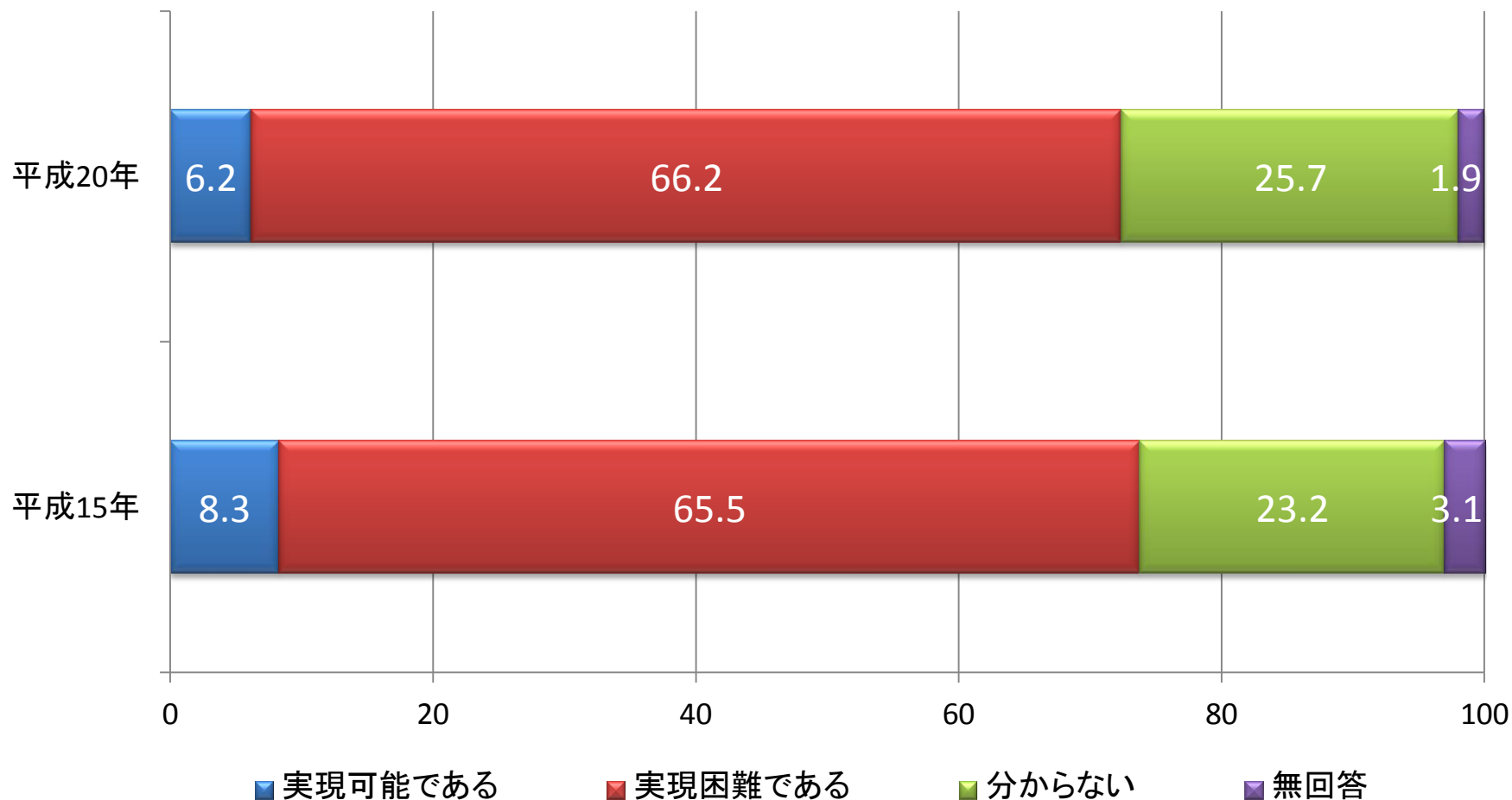
資料: 終末期医療に関する調査



自宅で亡くなる方が少ないという現状ではありますが、63%以上の国民は、できるだけ自宅療養したいという希望があります。

# 自宅療養には最期まで可能か

資料: 終末期医療に関する調査



自宅療養を希望する反面、65%以上の国民が自身の自宅療養は困難と考えています。主な理由では家族の介護負担や急変時の対応に不安がある、という声が挙げられます。最期の希望を叶えたい、その思いと同じくらい不安も強いのです。その不安はどこに打ち明けたらいいのでしょうか。

# 本人や家族がその時に 選択できるように

在宅での看取りを至上主義とするわけではありません。

「住み慣れた地域で生活したい」といった本人の願いをどうすれば叶えられるのか？  
どういった制度や方法があるのか？

そういった選択肢を作っていくことが、また知ってもらうことがプロジェクトZの宿題です

絵本「カメのぼんちゃん」を読み聞かせていただき、家族みんなで“幸せに生きること”について、考えることから始めてみませんか

